

令和 7 年第 1 回（3 月）定例会 文教生活常任委員会報告書

議案番号	議案の名称	審査結果	採決日
議案第 10 号	令和 7 年度宝塚市病院事業会計予算	可決 (全員一致)	3 月 4 日
議案第 18 号	令和 6 年度宝塚市病院事業会計補正予算 (第 2 号)	可決 (全員一致)	
議案第 27 号	宝塚市地域包括支援センターにおける包括的支援事業の実施に係る人員等に関する基準を定める条例及び宝塚市指定介護予防支援等の事業の人員及び運営並びに指定介護予防支援等に係る介護予防のための効果的な支援の方法に関する基準を定める条例の一部を改正する条例の制定について	可決 (全員一致)	
議案第 28 号	宝塚市立健康センター条例の一部を改正する条例の制定について	可決 (賛成多数)	
議案第 29 号	宝塚市私立学校助成条例の一部を改正する条例の制定について	可決 (全員一致)	
議案第 30 号	宝塚市学校給食の実施に関する条例の一部を改正する条例の制定について	可決 (全員一致)	

審査の状況

① 令和7年 2月27日 (議案審査)

・出席委員 ◎川口 じゅん ○桑原 健三郎 伊庭 聡 大島 千都世
 北野 聡子 坂本 篤史 中山 ゆうすけ
 みとみ 智恵子

② 令和7年 3月 4日 (議案審査)

・出席委員 ◎川口 じゅん ○桑原 健三郎 伊庭 聡 大島 千都世
 北野 聡子 坂本 篤史 中山 ゆうすけ
 みとみ 智恵子

③ 令和7年 3月14日 (委員会報告書協議)

・出席委員 ◎川口 じゅん ○桑原 健三郎 伊庭 聡 大島 千都世
 北野 聡子 坂本 篤史 中山 ゆうすけ
 みとみ 智恵子

(◎は委員長、○は副委員長)

令和 7 年第 1 回（3 月）定例会 文教生活常任委員会報告書

議案番号及び議案名

議案第 10 号 令和 7 年度宝塚市病院事業会計予算

議案の概要

令和 7 年度宝塚市病院事業会計予算について、地方公営企業法第 24 条第 2 項の規定により、議会の議決を求めるもの。

（令和 7 年度予算の概要）

外来患者数 延べ 21 万 2,280 人 1 日当たり 870 人

入院患者数 延べ 10 万 5,850 人 1 日当たり 290 人

収益的収支 収入総額 139 億 8,483 万 4 千円

支出総額 142 億 1,782 万 9 千円

収支差引 2 億 3,299 万 5 千円の赤字

資本的収支 収入総額 4 億 7,840 万 1 千円

支出総額 18 億 8,650 万 5 千円

収支差引 14 億 810 万 4 千円の不足

過年度分損益勘定留保資金等で補てん

論 点 なし

<質疑の概要>

問 1 患者満足度調査の結果を見ると、昨年度より満足度が上がっている。その理由をどう分析しているか。

答 1 意見箱を設置し患者からの苦情や気づいた点を把握することに努めている。その中で改善できる点を職場にフィードバックしたり、必要であれば部署を超え情報共有したりすることに努めており、そのような日々の努力が少しずつ実を結んでいると感じている。

問 2 開業医が病院を紹介する場合、どのように宝塚市立病院やその他の病院を紹介しているのか。

答 2 開業医は病院を紹介する場合、まず患者に希望を聞いている。その上で患者が医師に任せるということになると、医師が自分に関係がある病院に送るという傾向がある。そのため、まずは患者に市立病院に行きたいと言ってもらえるような情報発信をしていきたい。

問 3 患者満足度調査の結果、見えてきた課題は何か。

答 3 具体的な苦情の中身を見ると、対応によっては防げたのではないかというものもあり、それらについては、職員一人一人の意識を変えていく必要があると考え

ている。12 月には全職員を対象にウェブによる接遇研修を実施した。このような取組を継続していきたいと考えている。

問 4 地域内での完結型医療を目指した、市内 7 病院を含む地域の医療機関との連携強化の現状はどうなっているか。

答 4 市内 7 病院との連絡会議は、各病院の現状の課題や医療提供体制の展望について情報交換を行い、市内でできるだけ医療を完結し市民に適切な医療を提供することを目的として設置し、令和 6 年 7 月から理事長クラスの経営者が集まり意見交換を行っている。市立病院の課題である回復期病床についても意見交換を進めていきたい。

問 5 看護師が不足すると、病床の稼働率が下がり収益に影響が出ると思うが、看護師の確保についてはどのような計画をしているか。

答 5 看護師不足に対する対策として、離職を減らし、安定的な採用を続けることが重要と考えている。令和 6 年度の離職率は低下傾向にあり、新人看護師の早期退職も減少している。これは令和 6 年 4 月から設置した教育研修室でのメンタルケアや技術支援などの取組が効果を上げたものと評価している。

採用活動については、年度途中の採用も積極的にを行い、また、病院説明会やインターンシップ、Instagram を活用した広報活動にも努めている。今後も引き続き採用推進と離職防止に努めていく。

今年度は妊娠による休暇取得者が増加しており、人員不足に対する対応が課題となっている。子育て世代の看護師の増加に伴う夜勤の時間帯や部分休業を取得した時間を埋める職員の確保が今後の大きな課題だと考えている。

問 6 入院診療単価の向上が見られるが、他の病院と比較するとまだ改善の余地がある。今後のさらなる単価アップについての方策は。

答 6 現在、新たに急性期病院として認められるとその体制の入院料が加算されるため、病院全体でその取得に取り組んでいる。取得すれば 1 年間で約 2 億円の効果があると試算している。令和 7 年 10 月の下半期から実施できるよう、15 項目以上の要件を順次クリアしている状況である。下半期に確保できると約 1 億円の効果となり、入院診療単価 7 万 3 千円の根拠としている。

問 7 令和 7 年度予算として、2 億 3 千万円程度の赤字予算が計上されているが、この数字が市の考える収支均衡の数字なのか。

答 7 現状では、収益的収入及び支出の予算において 2 億 3,200 万円の赤字が見込まれている。ただ、予算の収入と支出に変動があり、特に薬品などにおいては高額な物を使う必要がある場合、予算がないので使えないなどということが起こらない

よう、余裕を持った支出を計上している。最終の決算額では、支出が抑えられたり、収入が予算を上回ったりする場合、プラスマイナスゼロまたは黒字になる可能性もある。令和 6 年度も予算以上の収益と経費削減が見込まれている。今のところ赤字は 2 億円程度と見込んでいる。

問 8 資金の期末残高は 2,100 万円と過去に例がないほど少なく、市立病院全体の年間規模からすると非常に心もとない状況である。これでは、軽微な変動で資金不足に陥らないか心配だが、その見通しについてはどうか。

答 8 令和 7 年度末の現金の残高は非常に少なく、このままいくと令和 8 年度の予算編成が厳しい状況になる。現在、資金不足に対して企業債を借り入れることができる新しい制度があり、それを活用して資金的な補填を行う考えである。

問 9 資金不足、看護師の確保やさらに厳しくなる収支などの現状を踏まえ、経営陣として今後の見通し及び新病院の計画についてどう考えているか。

答 9 新病院建て替え前に現病院での東病棟の工事が進む中、現在の病床稼働は 290 床を超え、今の職員数、固定費を払っても収支均衡を保っている。看護師が不足しても、全体の固定費はほぼ変わらないため、病床がフルオープンに 370 床になっても大きな問題はないと考えている。看護師の不足分を補い、フルオープンできれば経営状況がさらに改善すると考えている。

委員間討議	なし
討 論	なし
審 査 結 果	可決（全員一致）

令和 7 年第 1 回（3 月）定例会 文教生活常任委員会報告書

議案番号及び議案名

議案第 1 8 号 令和 6 年度宝塚市病院事業会計補正予算（第 2 号）

議案の概要

補正後の令和 6 年度宝塚市病院事業会計予算

資本的収入

補助金の予定額 15 億 2,755 万 4 千円（3 億 9,470 万 8 千円の増額）

資本的支出

建設改良費の予定額 26 億 4,398 万 1 千円（3 億 9,470 万 8 千円の増額）

寄附金により手術支援ロボットを整備するため、補助金及び建設改良費をそれぞれ増額しようとするもの。

論 点 なし

<質疑の概要>

問 1 導入を予定している手術支援ロボットについて、現在扱える医師は確保できているか。

答 1 現在泌尿器科に在籍する 2 名の医師が、手術支援ロボットダビンチのライセンスを所有しており、手術の実績もある。

問 2 資料 1 にダビンチ X i の写真が載っているが、検討しているのはどのモデルか。

答 2 現在選定中であるが、国内では 4 メーカーから販売されている。資料にあるダビンチは国内で最も普及しており、導入実績は国内で約 800 台と聞いている。ダビンチ X i は今国内で販売されている中で最も上位の機種になるので、選考に入れている。

問 3 ダビンチが導入されることによって医師の負担が軽減される利点は分かるが、逆に機械に頼ることで医師の力量が低下することにならないか。

答 3 ダビンチは、前立腺がんや直腸がんなど骨盤の中の一番低いところ、狭いところのがんの手術に適している。ある程度守備範囲が決まっており、すべての手術をダビンチで行うものではない。現在でも最終的な手段としては開腹手術を行うことになるので、特にダビンチが入ることで外科医のテクニックが落ちてしまうことはない。

問 4 年間の維持費はどのくらいかかるか。

答 4 年間の保守メンテナンス費用が税込みで 1,650 万円程度、それと 1 回の手術で必要になるいわゆる消耗品費が 17 万 5 千円程度とメーカーから聞いている。

問 5 近隣の病院でもダビンチが導入されている状況の中、ダビンチを導入したというPRだけでなく、市立病院で手術を受けたいと思われるようなPRが必要だと思う。何か考えているか。

答 5 医師の力量を大きくアピールしていきたい。本院の医師には兵庫医大で初期からダビンチによる前立腺がん手術を経験してきたベテランが在籍していることやダビンチを導入することで医師の派遣など兵庫医大の外科領域のバックアップも受けることができるので、こういったところをアピールしたいと考えている。

問 6 海外では新しい機種が出てきているという話も聞いている。今の時点で新規購入に当たって、現行機種を買うのか、新機種の様子を見るのか、どのような判断をしているのか。

答 6 海外では第 5 世代が 1 年前に販売されているが、日本では一部の部品の薬事承認が通っておらず、メーカーとしてはいつから販売になるか言えない状況である。メーカー次第にはなるが、例えば急に出るということであるなら、それも選択の範囲に入ってくることが考えられる。宝塚市に最新の機器が、寄附によって導入されたということになれば、患者に対するインパクトは非常に強いと考えている。

委員間討議	なし
討 論	なし
審 査 結 果	可決（全員一致）

令和 7 年第 1 回（3 月）定例会 文教生活常任委員会報告書

議案番号及び議案名		
議案第 2 7 号 宝塚市地域包括支援センターにおける包括的支援事業の実施に係る人員等に関する基準を定める条例及び宝塚市指定介護予防支援等の事業の人員及び運営並びに指定介護予防支援等に係る介護予防のための効果的な支援の方法に関する基準を定める条例の一部を改正する条例の制定について		
議案の概要		
介護保険法施行規則及び指定介護予防支援等の事業の人員及び運営並びに指定介護予防支援等に係る介護予防のための効果的な支援の方法に関する基準の改正に伴い、所要の整備を行うため、関係条例の一部を改正しようとするもの。		
論 点 なし		
＜質疑の概要＞		
問 1 宝塚市においては地域包括支援センターが 7 つあると思うが、保健師、社会福祉士、主任ケアマネジャーの 3 職種の不足は今のところ起きていないのか、またこの先の展望についてはどうなるか。		
答 1 現在、市内 7 か所の各地域包括支援センターにおいては、職員配置に不足が生じていないため、すぐに緩和した基準を適用する予定はない。今後は、専門職の確保が全国的にも課題になっている状況から、専従常勤の職員を継続して確保することは難しくなっており、非常勤の職員で補うような状況は起こりうるものと考えている。		
委員間討議 なし		
討 論 なし		
審 査 結 果 可決（全員一致）		

令和 7 年第 1 回（3 月）定例会 文教生活常任委員会報告書

議案番号及び議案名

議案第 28 号 宝塚市立健康センター条例の一部を改正する条例の制定について

議案の概要

本年 4 月から、宝塚市立健康センターで実施するがん検診のうち、前立腺がん検診を廃止するため、条例の一部を改正しようとするもの。

論 点 なし

<質疑の概要>

問 1 任意型の検診である前立腺がんの検診をどうして今まで実施してきたのか。

答 1 前立腺がん検診は平成 16 年度から実施している検診で、当時は兵庫県が県下の市町に対して実施を推奨していたと聞いている。その後、令和 2 年 3 月 19 日に兵庫県から、市町のがん検診の精度管理についてという通知が発出され、その中で、厚生労働省の指針に基づかない検診については推奨しないということが明記された。これを受けて廃止の検討をしていた中で、事務事業見直しに合わせて、具体的な廃止の検討を行い、今回の判断に至った。

問 2 前立腺がん検診の対象者の約 10%の方が受診され、そのうち要精密検査者数が 10%程度と思われるが、この中で実際に前立腺がんと診断された方はどれくらいいるのか。

答 2 令和 5 年度の実績では検診受診者数が 5,401 人であり、このうち、前立腺がんと診断されたと把握できた方が 31 名で、割合的には 0.6%程度となっている。

問 3 前立腺がん検診と死亡率の減少との因果関係が直ちに認められないということだが、この検診を受けてがんが見つかる場合と、自覚症状があつて診療として受診してがんが発見される場合では、予後の差が医学的に見られないということか。

答 3 前立腺がん検診と診療として受診した場合の有意差については国から発表されたデータはないが、がん治療の成果を示す指標として、がんと診断されてから 5 年後の数値である 5 年生存率というものが示されている。これはがんが発見されたときの進行度合いによって 4 つのステージに分けて生存率が示されているもので、転移がなく早期に発見された状態がステージ 1 で、2、3 と重くなり、最も進行して他の臓器にまで転移している状態がステージ 4 とされている。国立がん研究センターが発表している 5 年生存率では、ステージ 1 から 3 で発見された場合の 5 年生存率が 100%、ステージ 4 で発見された場合の 5 年生存率が 63.4%となっている。このように他の臓器に転移が見られる 1 番重い状態でも 6 割以上の生

存率で、ほかのがんに比べて非常に高い割合となっているところがスクリーニング検査の有効性が確立できないと言われている理由の一つと考えている。 問 4 事務事業見直しの中で命に関わる部分を見直すことについては疑問に思っている。例えば、値上げをしてでも続ける考えはなかったのか。 答 4 値上げについての検討も行ったが、そもそもこのがん検診を続ける必要性が市民にとってあるのかという観点で見たときに、死亡率の減少効果が認められていない検診をずっと公費負担でやっていく必要があるのかという点を重く捉えて、今回の判断に至った。 問 5 がん検診におけるデメリットの部分をどの程度把握しているのか。 答 5 がん検診によって、がんが 100%見つかるわけではないということや、検診を受けることで結果的に不必要な治療や検査を招く可能性があることがデメリットと考えられる。前立腺がん検診では、死亡率の減少効果に影響しないような、微小で、非常に進行の遅いがんを見つけてしまうことで、過剰診断を招き、治療の必要がない病変を、治療の必要なものとして診断してしまうことが課題の一つと考えている。	
委員間討議	なし
討 論	(反対討論) 討論 1 私の周りにも前立腺がんになった人も結構いる中で、早めに泌尿器科を受診することが大事だと思っている。しかし、頻尿や夜間トイレなど、おしっこの調子が悪いからといって泌尿器科を受診する人は少ない。健康診断の血液検査で、P S A 値を調べて、基準値を超えていれば泌尿器科に行く口実ができるということもあると思う。そういった意味で市民の健康を守るため前立腺がんの検診の継続を望み、反対の討論とする。
審 査 結 果	可決（賛成多数 賛成 5 人、反対 2 人）

令和 7 年第 1 回（3 月）定例会 文教生活常任委員会報告書

議案番号及び議案名		
議案第 29 号 宝塚市私立学校助成条例の一部を改正する条例の制定について		
議案の概要		
私立学校法の一部を改正する法律が本年 4 月 1 日に施行されることに伴い、所要の整備を行うため、条例の一部を改正しようとするもの。		
論 点 なし		
<質疑の概要>		
なし		
委員間討議 なし		
討 論 なし		
審 査 結 果 可決（全員一致）		

令和 7 年第 1 回（3 月）定例会 文教生活常任委員会報告書

議案番号及び議案名

議案第 3 0 号 宝塚市学校給食の実施に関する条例の一部を改正する条例の制定について

議案の概要

近年の物価高騰の影響により、学校給食の質を維持し、安心・安全な学校給食を安定して提供するため、昨年の 12 月市議会定例会において本条例を改正し、来年度以降の学校給食費の増額改定を行ったが、来年度も国の物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金が活用出来ることとなり、学校給食費の改定を 1 年間延期するため、条例の一部を改正しようとするもの。

論 点 なし

<質疑の概要>

問 1 食材費の高騰により献立作成が厳しくなり、給食費を値上げすることに保護者も理解を示し 12 月定例会で給食費の値上げが決定した。今回、国の補助金を充てることによって値上げを延期するということだが、今年度も国の補助金を充てているにもかかわらず、献立自体は全くよくなっておらず厳しい現状である。本市の給食費は他市に比べてまだ安い。今後、国の交付金を充てないとなった場合の見通しについてどう考えているのか。

答 1 本市では、保護者負担に配慮し学校給食の価格改定に慎重に取り組んできたこれまでの経緯がある。しかし、急激な物価高騰にも適切に対応するためには、保護者負担には配慮しつつも考え方を一新し、さらに豊かな学校給食を進める視点で、価格について検討が必要と考えている。令和 7 年度については、さらに 10 円上乗せすることとしている。その後の再来年度に向けては、阪神各市の状況も見極めながら早急に検討していきたい。

問 2 給食物資の価格は 140%程上昇しているが、保護者負担金額は変わっておらず、物価の上昇に対応できていない。各物資の価格上昇と給食の質を維持するための給食費の保護者負担について、学校給食運営協議会で検討や議論を行ったか。

答 2 学校給食運営協議会では、具体的な物価高騰の実態も説明しながら保護者から意見をもらい、保護者も一定の給食費の改定を認めざるを得ないという結論となった。併せて宝塚市 P T A 協議会にも説明を行ったところ、同様の見解を得て、保護者としては、給食費の改定をしてでも質の向上を図ってほしいという意見でまとまった。

問3 学校給食運営協議会では、今まで質の向上に対する協議があまりなかったようだが、今後、質を保証するための値上げについて議題として検討していくべきではないか。 答3 これまでは、質を維持するという視点で給食費の改定を検討してきた。宝塚市の子どもたちにとって望ましい学校給食という視点からの価格の在り方を検討すべきと考える。 令和7年度は、できるだけ早期に学校給食運営協議会を開催し、具体的な検討を進めていきたい。	
委員間討議	なし
討 論	なし
審 査 結 果	可決（全員一致）

